



2019年1月4日

## 己亥の年

公益財団法人 国際通貨研究所  
理事長 渡辺博史

今年己亥「つちのと いのしし」年である。60の干支の36番目にあたる。猪突猛進といったニュアンスはあるが、陰陽五行も含めてどういう年かという解説をキチンとする能力はないので、昨年同様、過去の事象だけを拾ってみよう。

あまり、古くなってもどうかということで、120年分(60年x2)にあたる1899年と1959年を見てみよう。

1899年(明治32年)、年表を見るとアメリカの話から始まる。今年の先行きを暗示するようでやや気が重い、1月1日にクイーンズ島とスタテン島とがニュー・ヨーク市に編入された。これは良いのだが、2月には米西戦争の講和条約が批准される一方、米比戦争が始まる。アジアへの積極的介入である。また、英国は第二次ボア戦争を引き起こしており、120年経った今年もこのアングロ・サクソン2国のお騒がせの年になるのかも知れない。ただし、オーストラリアでは6植民地代表が集まり、首都をシドニーとメルボルンの間のキャンベラに置くことを決定しており、「妥協・譲歩」の一つの姿を示した。

ロシア皇帝ニコライ2世の主導で第一回万国平和会議が、オランダのハーグで開催されたが、最近のロシアの動きを見ていると、平和会議とは逆の方向に引っ張っていかうという感じがするのが、落ち着かない。

産業面では、automobile(自動車)という語が初めて使用され(New York Times)、また、ドイツではオペルが操業開始したなど、今につながる自動車産業の起点となっている。

日本では、東京一大阪間に電話が開通し、実業学校令が公布されたなど、産業振興の揺籃期にあたり、例えば日本電気(NEC)や森永西洋菓子製造所(森永製菓の前身)が設立された。

この年に生まれた人物を眺めてみると、アル・カポネ、ラブレッチ・ベリヤなど、やや不気味なプロフィールが並ぶ一方、米国の映画産業を盛り立てた人物として、アルフレッド・ヒッチコック、フレッド・アステア、ジェームズ・キャグニー、ハンフリー・ボガードと目白押しである。その他の芸術関係では、アーネスト・ヘミングウェイ、エドワード・ワズワース、そして川端康成という名が目を引く。経済面では、様々な功績を遺した人物として、フリードリッヒ・ハイエクと池田勇人を挙げておこう。

我々は常に災害には気を配らねばならないが、この年、別子大水害が発生し、土石流による死者数が 513 名にも上った。

1959 年（昭和 34 年）、1 月 1 日はメートル法の実施で明けたが、この年は、テレビ局の大量開設年となった（NHK 教育、日本教育、フジ、毎日、九州朝日、朝日、東北放送などなど多数の局が放送を開始した）。また、マスコミ面では、今なお砲弾を炸裂させる週刊文春や、その後驚異の発行部数を達成した少年週刊誌ブームの嚆矢として、少年マガジン、少年サンデーが同時刊行された。

もう一つの大きな動きは自動車産業の発展であり、愛知県挙母市が豊田市に改名と言う地域への影響力の大きさを明らかにする動きと共に、日産自動車がブルーバード、プリンス自動車がグロリア、いすゞ自動車がエルフ、とそれぞれ名車を発売した。また、個人タクシーが認められ、初の認可が 173 人に下された。その他、シチズンが防水時計のパラウォーターを、日本光学工業がニコン F を、日本楽器製造がエレクトーンを発売した。更に、海外の話ではあるが、ナイロン製パンストが米国で発売されたのもこの年である。

この年の一大イベントは、皇太子（今上天皇）のご成婚であった。そして、長嶋茂雄の天覧試合でのホームランも記憶に残る。また、IOC 総会で 1964 年のオリンピック開催地に東京が選出されたのも、この年である。スポーツつながりと言えば、大相撲 6 場所のうち、5 場所の優勝を栃錦、若乃花で分け合った黄金の栃・若時代のピークであった。

その他、心なごむ話としては、南極条約の締結と言う平和的利用の途がこの年に付けられた南極において前年残されてきたタロとジロが発見された。また、児島明子がミスユニバースに選出され、未だ少女週刊誌の発行はなく取り残された?! 女子に対して、という明確な意思は無かったと思うが、バービー人形の日本発売が開始された。

テレビ局の大量開設と言う流れに乗った形で日本レコード大賞が創設され、その第一回受賞曲は水原弘の「黒い花びら」となった。また、ザ・ピーナッツがデビューしたのもこの年である。

もちろんこの年も災害から逃がれられていた訳では無く、伊勢湾台風は史上空前と言われる死者 5041 名の大被害をもたらした。

この年に生まれた方の名前は、まだ皆さん現役で沢山いらっしゃるので、省略。

昨年末から、様々な出来事が、集中的に起こり、今年の展望は明るくないが、希望を持ち続けて、目配り、気配り、そして努力をして行きたいと考えている。このように内外の各面で、頭痛の種が多そうな今年であるが、アスピリンがバイエル社により商標登録されたのも 120 年前の己亥年であったというご縁があるので、耐えかねる辛さのときには服用しますかね。

(以上)

(IIMA メールマガジンへの寄稿)

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべて御客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願ひ申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。

Copyright 2019 Institute for International Monetary Affairs (公益財団法人 国際通貨研究所)

All rights reserved. Except for brief quotations embodied in articles and reviews, no part of this publication may be reproduced in any form or by any means, including photocopy, without permission from the Institute for International Monetary Affairs.

Address: 3-2, Nihombashi Hongokucho 1-chome, Chuo-ku, Tokyo 103-0021, Japan

Telephone: 81-3-3245-6934, Facsimile: 81-3-3231-5422

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町 1-3-2

電話 : 03-3245-6934 (代) ファックス : 03-3231-5422

e-mail: [admin@iima.or.jp](mailto:admin@iima.or.jp)

URL: <http://www.iima.or.jp>